

## 我是世尊使

今年は誠に目出度い年でありまして、日本山の仏法が一闇浮提に弘まる始めになった様であります。いよいよ明日は、御祖師様の七百御遠忌の元旦を迎える事になりました。明年は、いよいよ賑やかに広宣流布の時が来る様に思われます。日本山としましては、七百遠忌の大法要の場所に、此処清澄道場を選定致しました。日蓮大聖人様が、十二歳の時に此の山に登られ、此の山で出家得度遊ばされました。三十二歳にして初めて日本の仏法—南無妙法蓮華経を唱え出されたのも、此のお山であります。此処のお山から小湊の宝塔様が見えますが、あそこが御誕生の地であります、十二歳位の時は、御両親の事を思うて遙かに小湊の天地を拝まれたと思われます。そう云う因縁がありまして、此のお山で七百遠忌を勤めたいと思うて、此の道場を建てました。短い期間でありますが、幸に実現しました。世界の平和運動の指導者達、宗教者の指導者達を此の山にお招きして、現代人類に差し迫っております非常に危険な問題を解決したいと思います。

日蓮大聖人様の御一代を貫いた立正安國論と云う日本の仏法は、末法万年の時代を救う為に遣わされた、仏様の御弟子の上行菩薩の御再誕として、新たな宗旨の立て方をなさいました。日本の仏法は、多くは朝鮮や中国から習い伝えたものであります。伝教大師にしても尚、唐に渡られております。弘法も

勿論そうであります。禪宗の栄西禪師、道元禪師、共に中国に渡って仏法を学び伝えて来ました。其の中で念佛の法門は、中国に起つたのでありますけども、日本の比叡山の学匠・源空と云う御坊様が書物を見て、南無阿弥陀仏を称え弘めましたけれども、あちらから、もう弘まつておる法門を継いだだけであります。念佛は、死んで西方極楽に生れ変わると言う教えであります。禪宗は、そんな事は無い。我が心をあきらめれば、それで仏法になると教えておりました。それは皆、我が身の、個人個人の救いに他なりません。ところが日蓮大聖人様の御宗旨は「個人の救いを求めると言って、どんなに求めても、環境が波騒がしく立ち騒げば、個人の安心も得られない。極楽の往生も覚束ない。現世の引き継ぎが次の世になります。現世に役に立たない仏法が、死んでから先だけ役に立つなんて事は嘘事だ」と申されました。

先ず目の前の現世の苦しみを救うには、どうするか。そこに個人個人を説いて回っても間に合いません。国家と云う組織が出来ておきましたんで、国家を導いて一緒に正しい道を歩ませる事を申されます。立正安國論と云うのであります。安國—國家を安穏にすると云う事は、政治家の仕事かと思いました。政治が国家を安穏にせずして、政治が民衆を苦しめます。其の時に国家を諫める者がなくてはいけない。国家のあやまちを正す者がなくてはいけない。それが権力の外に立って、正しい精神的な道を教えるのが、宗教の権威であります。其の宗教家が、国家権

力の後に付いて回って、国家の命ずる儘に教えを取っ替えて行く事が、詔曲の僧とあります。仏法も曲げますし、我が身の信仰も曲げます。何もかんも曲げてしまいます。此れば、どうも何時の世も逃れないと宗教の災難であります。其れを曲げないとすれば、日蓮聖人様の様に、国家権力との衝突を覚悟せねばなりません。

今拝みました御持品第十三の経文の始めが「唯願はくは、慮ひしたまふべからず」御心配なさいますな。「仏の滅度の後、恐怖悪世」とあります。人類が恐怖にさらされておる。悪い事が横行する。こういう恐怖悪世の中に於いて「我等當に廣く説くべし」とあります。大勢の為に此の法を伝えますと言い、佛様御安心下さいと申し添えてあります。それが御持品の経文の二十行の偽の始まりであります。そこで廣く説く法はどうするのか、と云うのに、一番悪いのは三類の強敵と云うのが出て来ます。仏法の中に、弱者に悪口を言う者も出来ます。それから暴力を振るう者も出来ます。これらはまだ良いのであります。その次に又、悪い御坊様方が出来ます。その御坊様の一一番悪いのが「納衣にして、空閑に在って」シウラを着まして閑かな処にあります。「自ら眞の道を行はずと謂ふて」これで仏法の出家の道を丁度正しく修行して居ると思うんであります。これが仏法教団の中から一番最後に出て来る法滅の災いの悪魔であります。

皆様方も気を付けなさるがいい。一代の間、納衣

にして、御寺の中で仕事もせずに只静かにしておれば、それで本当の仏法修行が出来た様に考えて、人間を軽蔑する一働く御坊様を悪く言います。「あれは下等な坊様で、渡世が出来んから、太鼓を擊って回るんだ」そんな事を言うております。これもある事でありますようが、其の中で本当に道を弘めるのはどうするか。「恐怖悪世の中に於て、我等當に廣く説くべし」其れを私も酷く考え頗いました。出家はした、そして勉強は三十三歳まで致しました。誠に愚鈍な人間でありますから、昔の人の書いた物やなんかをやたらに習って回りましたけれども、習って後は、どうすればよいのかに酷く悩みました。どうすればよいのか。本を習ったので、学校の先生でもしましょうか、新聞・雑誌を書きましょうか、演説や説教をして回りましょうか、大体こんな事が、勉強した人の仕事の様に思われました。その他に、験者と云つて御祈禱をする御坊様があります。こんな御祈禱師になろうかとも思いました。とにかく何とかして悪世の中に法を弘めて行かねばならない。「我等當に廣く説くべし」。けれども、どれがいいのかわかりません。

一步踏み違えると、もう一たび東に足が向ければ、西の方の用は出来ません。西に向けば、初めは一步でありますけども、次第次第と西にばかり行ってしまいます。学校の教員も、どうも大した事はない。それから御祈禱師も、病を治すなんて事を言いますが、良くない。一番良くない証拠は、験者の臨終一

末路が悪いんです。これは争えない事実であります。それを見ました。これもいけない。どうしたらよかろうかと思い煩って、あちこち滝にかかりてみたり、御斬食してみたり、様々な事をしましたが、大和の国の法隆寺におきました為に、大和の国の色々な古い御事跡を尋ねて回りました。其の中に桃尾の滝と云うのがあります。昔は其処に御寺があって、高僧知識が住んでおりました。今は跡形もありません。一寸お堂があります。其処へ一週間お籠りしまして滝に打たれました。其の時、最後の結論が出ました。不思議な靈感を感じました。

夢の様な世界でありますか、其処へ太鼓を擊ち御題目を唱えて、坂道を上って来る人があります。背中に赤ちゃんを背負っております。私、其の人に「貴方は誰ですか」と聞いました。「私は上行菩薩だと」。『さて其の背中の赤ちゃんは誰ですか』。「毗迦牟尼世尊だ」という事を言って、其れでお別れになりました。「末法の修行は、御毗迦様、御驪生仏を背負って、世界のあちこちを太鼓を擊って回らねばならない」と云う結論を得ました。それで早速其処から能勢の妙見様の滝（本妙日臨上人の御靈蹟）を尋ねました。

本山が十六有ります。其の中で、今はもう無くなりましたけども、本願寺の側に本願寺と云う大本山がありました。日蓮聖人様の松葉ヶ谷の御草庵を、足利時代に移しました大本山であります。末寺も仰山あります。其処にお参りしました。

もう冬の寒い頃であります。草鞋を履いて御

堂を巡っておりますと、私と同じ時期に大崎の学校を出た友だちが、其処の執事をしております。私の姿を見まして「藤井君は、大崎を出て長い間勉強をして回ったから、何になるのかと思うた所、お千箇寺になった」と言います。御千箇寺と云うのは、病気が何かしまして、家を出て御靈場を巡って命引きをする人であります。其の人も、私には直接は言いませんが、京都におります為に、末寺の庵主さん方に言うて聞かせました。それが耳に入りました。私又、真言宗の方に研究に参ります。真言宗の先生と親しくなりました。色々なお宅に参ってお話をしますと「本願寺の執事さんが、真言宗を破折する言葉に、第三戯論と云う言葉を言うんですが、そりやどうしたんですか」と言って真言宗の学匠が尋ねた事があります。そんな風で、余所の大学の講義をしたりしておりまして、寒いのに私が素足に草履を履いて太鼓を擊って巡る姿を見て、どうもつまらん事をすると思うたものでしょう。

今、日本山の御弟子も、日本山の修行を、たぶん本願寺の執事の考え方位に考えていると思います。「つまらん、太鼓を擊って街を巡ったかって何になるか」という様な事であります。巡る時、宿がありません事を覚悟せねばなりません。其の時、毛布が一枚だと、背中の箱の上に唯置くだけでありますけども、一寸荷になります。白い毛布でしたが半分に切りまして、毛布の半分を背負って、何処にでも野宿をする覚悟を決めまして実行しました。宿が無い。

寒い冬のさ中であります。其の時に毛布を出して着ればまだ良かったんですけども、毛布も出しませんで、寒さに震えて夜の明けるのを待った事があります。何返もそんな事をしたんではありませんが、一生忘れ切らない事がありました。夜が明けたから、水道の口をひねって水浴をするつもりでありますけども、凍りついて水道の口が開かなかった事を覚えております。

こんなにして歩きましたが、其の御経本や着替などを入れた箱の裏に、御題目を書いた札が入っております。その札に南無妙法蓮華経と書いて、両脇に御持品の「諸の聚落・城邑に、其れ法を求むる者有らば、我皆其の所に到って、仏の所囑の法を説かん」の経文を書いて回った。今それは阿蘇にある筈であります。「諸の聚落・城邑に、其れ法を求むる者有らば、我皆其の所に到って、仏の所囑の法を説かん」これが最近、漸く実現する様になりました。今、ミルトンキーンズの日本山から、世界を巡っておりますが、行った先で法を求むる者に出会います。出会った者に、あのアウシュビッツの中から逃げ出した婦人等があります。何うして逃げ出したか、何か便所の中を潜って逃げ出したと言うんです。今、ポーランドでありますか、市長をしております。

そんな人々も皆、明年は此處に集まりたいと申します。共に世界平和を求める人々が集まるでしょう。貴方がたも「諸の聚落・城邑に、其れ法を求むる者有らば、我皆」こちらから出かけるんです。「我皆其

の所に到って、仏の所囑の法を説かん」これを実現せねばいけません。其のが漸く今度のミルトンキーンズに於いて地に着いた様に思います。

本化上行菩薩の再誕として、六万恒沙の眷属として、仏の滅度の後、恐怖悪世の中に法を説いて回る者が、御祖師様の法門を継いで、御持品の修行をします。今、日本山は、寺の中に籠って渡世をする時代でありません。「恐怖悪世の中に於て、我等當に廣く説くべし」貴方がたは、何処まで行って法を説いたですか。広く説かねばいかん。広く説くのには、広く回らねばならん。同じ信者を回向巡りしても、それから御葬式をしても、大した事は無い。広くも何もありません。日本山は、本当に僅かの人が広く説いております。其の余徳を受けて、皆も渡世が出来るんです。貴方がたに徳があって、渡世が出来たんでないんです。若し此の法を説く者が無かった時に、貴方がたは忽ち飯が食えなくなります。

皆様方も、私の歳に比べればまだ若いから、これから太鼓を擊って広く御題目を唱えて回って下さい。

「諸の聚落・城邑に、其れ法を求むる者有らば、我皆其の所に到って、仏の所囑の法を説かん。我は此れ世尊の使なり」初めてそう言えるんです。

(昭和55年12月31日 清澄にて)